



ドリブルする佑太さん(左)とパスを出す宏太さん(右)

輝いています

ひと

やまざき ゆうた こうた
山崎 佑太さん・宏太さん
(兄) (弟)

全日本U-12サッカー選手権大会優勝

2人でプロ、そして海外へー

双

子の弟がサイドを突破してパスを送り、兄のシュートがネットを揺らす。東小学校6年の山崎佑太さん・宏太さん(12歳・塚越1丁目)は、昨年12月の全日本U-12サッカー選手権大会において、数々の好プレーで、レジスタFCを優勝へと導きました。地元のチームでサッカーに出合ったのは5歳のとき。シュートやボールを奪う楽しさから練習に熱中し、周りの環境にも恵まれ、上達していきました。2人の長所は度胸と向上心。コロナで対外試合が停滞した一昨年には、力を伸ばせる場所を求め、県内の強豪レジスタFCへの加入を自ら決断します。「実力者とプロ

レーでできるのがうれしかったようです」と母・葉々子さん。激しく動き続ける1対1の練習や1時間に及ぶ体のケアなどを意欲的に行い、ともにチームの柱へと成長しました。「兄は体幹が強く、トップで大事なときに点を決めます」。「弟は左サイドの攻撃に欠かせない存在です」。ライバルとしても認め合う2人がけん引した全日本選手権の天王山は、大会得点王を擁する横河武蔵野FCとの準決勝でした。試合は先制を許す苦しい展開。しかし、「勝つしかない」と宏太さんが放ったコーナークICKが逆転弾をアシストします。直後に同点とされるも、「負けるわけない」と敵陣を破った佑太さんが左足一閃。みごと決勝点となりました。決勝は完勝で日本一になったものの、更なる高みを目指す2人には課題が山積みです。まずは素早い判断力を磨くため、現在3か月限定でフットサルに挑戦中。5日・6日には全国大会に出場します。4月からの所属はFC東京U-15。廠で生まれた双子星が、海外プロクラブでの活躍を夢見て、新たな舞台でいっそう輝こうとしています。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 廠にあり

—No.70—



渡部温 訳述『通俗伊蘇普物語』より
暁斎挿絵「第30話 牧童と狼の話」明治6年 版本

『イソップ物語』は安土桃山時代の頃には既に日本に伝わっていました。暁斎が明治5年(1872)から挿絵を描き始めた『通俗伊蘇普物語』が、翌年に出版されると広く浸透し、その後、修身の教科書にも取り上げられるようになりました。本図は通称「狼少年の話」としてよく知られた作品です。狼が来たことに驚き、村の者を呼び

に来た少年の必死な姿に対し、画面の手前には、またいつもの悪ふざけだろうと取り合おうとしない大人たちの様子が描かれています。



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
~明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 開催中

企画展「『通俗伊蘇普物語』から150年 暁斎が描いた寓話・教訓譚」展
同時開催 特別展「暁斎が描いた『通俗伊蘇普物語』の挿絵」展

開館 = 午前10時~午後4時

ところ = 南町4-36-4

休館 = 火・木曜日、毎月26日~末日

入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円

※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください

詳細 = 同館 ☎441-9780



詳しい内容は美術館のホームページを参照ください